



心室 国花

日本居家秘用

二

<p>時候 下 吹くふりたりとつてその 夏の暑さをとるるや委</p>	<p>天気 いより悪悪刃んや 風を去るるや日月星 辰雲を去るるや日月の 暈を去るるや委く記を</p>	<p>菓茶 かきやうき委く記を つしぎはせやう記を 中う其外陸漢仕や 中う竹のこぼれけの漢</p>	<p>酒 酒の進やうき委く記を 中う飲の法やうき又 いしや菓酒の法やう 酒の法や委く記を</p>
---	---	--	---

目錄二

78
3370
2



門ヲ 8
號 3370
卷 2

昭和十六年
四月十八日
晴

日本居家秘用卷之目錄

○酒樽酒

此部は味樽乃りく作りたる
酒樽は味樽乃りく作りたる酒の
造りや、蒸へ酢乃りおき、葉酒
乃りかゝるは乃方蒸汁の法
蒸酒の法もどくくまらぬ

○酢葉菜

此部は味樽乃りく作りたる
やう酢葉菜水菜乃りたぐハハ
竹乃子ね、けの塩漬乃り仕
白糠乃りやう何を標乃りま
まらぬ、葉菜乃り事なぐり
まらぬ

居家秘用

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including a circled character '酒'.

○酒醬

酒以造之凡先才一小水
以撰之乃一又米以撰之乃
水以之撰ひて之米乃
性より凡ハ醇酒と凡ハ
之久しく辨へたが一米乃性
は強ひてはくまはたりた
はくしそまのそ久しく保
つる一たよそ京都大阪ふ
て酒ふ用由り米ハ江列播

本草和用二

天長和月
列伍前びんぜん前又ハき内さかい乃采
依き櫻さくら比ひ用もち田た比ひ類るい依い專せん々々々
とれうの外ほか乃采のみををとと同どう用もち
やまともともしし比ひ酒しゆはは用もちひひ
又高年たかとし乃采のみ出で来こぶぶらら時とき八月はつげつ乃
ころより新采あらたのみ乃采のみああるるままで
ははらら成なりとと他ほかりりとといい采み
ハ越こ浮ぶ采み出で月つき田た采み依い專せん
用もち也なり又またいいとと作つくりりとと比ひ依い
採とりりはは播は員いん又またハ安あ藤ふじ乃
采み依い用もち也なりととままるる乃の采みハは勿な

論ろん去き年ねん乃采のみををりりいいとと作つく
といい一い派はハは久く一いくく狩か家か酒しゆととは
ああささらら○案あんぶぶらら不ふ法はふ小この酒しゆ
依いここららひひららふふ氷こりり死し去こ地ち乃
酒しゆとと采み乃の性しやうよよううととささらら國くに乃
酒しゆハはれれひひくくハは一いやや一いかかはは志し
ままはは采みとと採とりりぶぶらら乃の本ほん
朝あ乃の酒しゆ万まん小せう小せう務むままららとと
果い國くによりよりはは采み乃の性しやうとと比ひ依い
いいつつりり一いととセせ豊ぶん後ご比ひ亦また一い返へん
ううりり一いとと依い小せう乃の酒しゆ家か乃

居い家か必ひつ用もち二

一 度の入る酒ハ常中と用
 四 度々々ハ毒あり道邊
 鄙乃酒ハ新酒のころ水漬
 ねはくくまら酒ハ性力強
 ちんがみふ度強ねはく強
 海ものありむ毒は海一用
 中々ハ此脾胃より死人
 む害あり

▲味増小用中大豆ハ江列
 伊豫豊後後体中大豆播別
 三ヶ月より出る液よりとん

乃中江列大豆液をよと
 江列前味所小用也播別
 大豆大豆こまみ液で上取
 豊後國大豆ハ江列よと
 夏月少と換で江伊豫大
 例大豆ハくく之て味強の元
 栄あり小よりて愛家小お酒
 くまら也右乃中江列大豆
 ハ味強乃味よ汁小用して
 酒たむむよ

▲通小用中大豆ハ濃液
 三ノト

肥後米代車しつぱしつぱと名い

つと成と用もち四谷しつぱといと

右乃米ハちかしくは死てむ

味あじ味あじ酒さけ酒さけ乃二種あり

味あじ味あじ酒さけ酒さけ用もち用

中々人のあまきと味あじかいら幸あり

味あじ味あじ酒さけ酒さけ用もち用

豆まめ麴こう乃左大豆まめ乃

但いづまこれ大豆まめ用もち用

といづま伊い豫よ宇う和わ乃又同也

右田う乃乃大豆まめ乃

但右小記と穀物ハ海路うみ運

送おく送おく乃中ちゆう乃

味あじ乃酸すい乃乃味あじ乃

乃味あじ乃乃乃乃乃

けろの可か乃乃乃乃乃

満みち乃乃乃乃乃

余あま乃乃乃乃乃

味あじ乃乃乃乃乃

又乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃

乃乃乃乃乃

いくつと打こし七八日月どま
 だし必味あじよくなすのしどく
 味あじ桶ハ肥こ方たねこ底こと蓋ふた
 破やぶけつがら桶びのからあとま
 ころれころろ

▲味あじ噴ま大豆ふ成ぶ者ぶ者ぶ時し少すれら
 少すししれれ汁じ乃の二に未ま成じ少す
 入いりり一い日じややむ

▲常つね小こ用よう子こ味あじ噴まハハ塩し成じ湯ゆて
 湯ゆのこここははははくく去ぞるる或あるハ
 冷ひや下くだ乃の火ひ氣き又また八はち日じのゆりり

てむせさるあふれくハ一二年成
 経へくく用よう日じれれ蒸む味あじ噴まハ
 つらつららししくく後あ中ちゆう小こ淨じゆう一い日
 してして蒸むりり

▲千里せんり酥そ乃の法ほう 蒸む了りるるああままをを
 酸すい味みつつれれ酥そ乃の中ちゆう小こ浸ひ一い
 日じ 蒸む酥そ乃の蒸むるる時し五ご日じ

小月こげつ一い右みぎ乃のここととくくいいくく乃の日じ
 酥すい小こ浸ひ一い日じ一い日じ乃のととれ
 携たりり乃の一い日じ乃の時し水みづ一い日じ
 ととれれくく用よう中ちゆう乃の甚しんよよ一い日じ

蘇家利月二

▲梅酒乃法 好酒一升水

廿糖百目梅二十升水

之十よく塩水汲ひね

一升水壺小入り候よく

五十月にと去中水添く

まぐー梅乃香よく味

好一疼紙沽一氣紙傾

の功なり

▲丸山ひし月乃法 小

妙く妙なり黒大豆是と

同く妙て妙なり大豆

合水麦回合らハセむ

室へ入茶紙は多之合

小ハセ事乃糖紙水よく

好ひくの好い汁よく

こ程く深き好い

好いよれ志こころ

紙うけ益八日南へ出

味とかり又大豆紙妙

一右乃大豆小うり

いりまぐー花よくは

八月乃ちぢぢりひー月
よちー

▲精進汁乃法 柿乃皮

干さう飯の酒師乃塩加減

て者おまの味あふく鯉乃

茶汁おたこは是倍強

ふ室むの法おろの又日布

代お火汀小用ゆらけ山排

加さうれ味いしくあなり

▲精進早焚酒乃方 牛酒止

合白大豆一合すは法白柿

七つう八つ茄子香物一つは

急なう時ハ燈火ふくあ

ゆは甚味よく鯉飯用ひく

さく小あすーはーいハ

▲早糠味噌乃法 餅米の

ぬう飯納締あくよくうらひ

大豆乃粉飯あふふらハセ砂

糠飯加一酒少く、移る

▲早作味噌乃方 大豆一斗

飯よくた記くハ飯ひを

居家和用

其れ薄し一夜釜小煮て翌
 日又少煮て取出一法を
 びし板糍一斗を右の法を
 する入豆此温る中につ
 死させこれふは冷ざら
 不ふと煮るしとくさ死た
 時塩二合立夕れぼとのふ
 何かせ時時小用ひてとよ
 し翌日よりのはいよくし
 友ハ二時三時をぬりしとを
 湯二十日此日ハ換せし

又方大豆一斤小白米五六
 合八升粥乃はとりの白粥小
 煮死せばせれハ十日おど
 乃同くたよとあるは是は白
 味噌乃方あり

梅干し乃方 梅干を以
 ひ鹽をとり核をとり搦つ
 ぐし白砂糖をいれおどし
 い酒をくへる新らるし

丸山栗梅乃方 大なる好梅
 乃熟せざるを塩ふはけ梅

一、梅干を煮て汁をとり、梅干を
 水で洗ひ、塩氣をとり、
 核をとり、すり細ふき、ごま油
 少々、酒をすこし加へ、
 小よぐき、干して、梅干を
 煮、け、不ろく、ふろ、ろ、目、を、
 干し、味、かり、し、

一、梅干を煮、汁をとり、梅干を
 水で洗ひ、塩氣をとり、
 核をとり、すり細ふき、ごま油
 少々、酒をすこし加へ、
 小よぐき、干して、梅干を
 煮、け、不ろく、ふろ、ろ、目、を、
 干し、味、かり、し、

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, mostly illegible.

○菓茶

▲まがなて菓子かきをぬめたく
 かりまは初うち木ふあり時より
 しく盛こしあるを搦もきぬし
 とれみどりふ手てをまきこ
 かりそこあはざんやうふまが
 又地ちふをけれとぬるう
 中ふ汁じゆ氣け成じやう肉にくふ平へいくま
 たう類たぐいハはたりふあげは弟あや
 られハたぐくて色いろさる

▲收あ青梅あおな 喜あ梅な乃の熟じやくせと

源を搦とらひとりあてる言所を二つ小
まゝりそれ中へ梅をいさ竹れ
まゝりマモコに依よりてあゝせて葉はを
そり山ヤマ出でてよきなりと
出で中ちゆうふ埋うむるまるる一い入い用よう乃
時とき取とり用よう中ちゆうににああららししめめ
乃のここししつつままをを換かへへ
用よう中ちゆうの時ときにに編あららししめめるる竹たけをを少
づづ引ひききりりてて梅うめをを取とりりて
し又また踏ふははららぬぬ乃のここししめめるる封ふうじじ
をを取とりりてて桃もも杏あん李りもも取とりりて

▲研漬マカヅケの法 河原カハ乃のごごり
砂すな一い升しやう小こ塩しほ二に合あ乃のははととりり小
ああららせせ菓くわ業ぎやう乃の類るいををいいけけ至
ババ名なかりりるる乃のごごりりてて久く一いをを取とりり
川カハににははあり

○又また室むろにに中ちゆうにに潮しほをを壺つぼ小こ入
たたくくハハ至いた至いた茹ゆ子こ丸まる乃の類るいをを浸ひけ
たたけけババ久く一いをを取とりりてて久く一いをを取とりり
潮しほハハ汀ていよりより五ご七しち丁てい沖おき乃の潮
一い汀ていハハわわららししめめるる

▲山椒サンショウをを漬ヅくく法 山椒サンショウ乃の葉はをを取とりりて

ありぬ一升小塩三合水二升
 をゆき壺ふはち壺の中へ
 入りどある蓋少てねえよ小
 小石を押しおきぬぐ久よえ
 辛味わけど入用の時に出
 一ころ踏を右のござを
 ねをぬぎおきぬぐ但もを
 ぬぐ代いじ着少て再ぬぐ
 ぬぐ一〇又米泔汁小塩を合
 せて壺小漬をぬぐ辛味とて
 久長く味とねえよへに

▲西丸液糯米小を付とね
 煉や一酒氣液得とね
 壇や一

▲柿ハ綿子の中ふすんごり
 やうふ入るん

▲生省を久一久たぐよろね
 桶に入蓋を一河乃瀬を死
 不ふ埋め金ぬぐ但上は石を
 星ぬぐ一をよびの類も同

▲又塩湯よくよ湯煮一てよ
 く干して壺小入るん八

九月のころ取出し又やまぐ

又蒸してこれ海に皮とと

小切りに搥んで漬りし

乾松茸 新に松茸を撰

ひ茎をとり傘を二三日干

朝して好法ありあてそり

れさじ角一翌日去るふり

ても香甚し一草は破して

食ふよし

▲松茸は搥漬ハ搥を十分ふ

入て漬る角一むれしをわり

五角一新に紙を撰ハ漬

▲野芋 芋を根ととり切

後をわり米糖のちゆり

ら瓜肉へはれ口を紙とそ

甲と平け菰小すれ常小

煙のわみ電れよに法り並へ

一入用乃時湯煮まじり名

わらび新なるごと

▲梅干 梅干ハ数日干乾し

とけ肉少一二十日を漬

おぼろけ好取出—三四日干
てぬじまは肉あつ—

▲干瓜の法 干瓜を知り

ふきぎをたてた天氣よ月より

の好酒をととほの壺小入

風れあつ—ころやうふ口をと

て—あつ—冬れ中まふり

甲てと取出—水ふ浸をて

用ふ瓜をく—てせ瓜のこ

▲干瓜をたては臘月小言

一斗ふ盛こ合入—壺小

入海—夏月瓜を二

つふよりあつ—後よをとり

漢—瓜—来友中—はた

あり

▲梨を収家—は厚紙或は

同葉ふほ—みろの上紙葉つ

とんほ—て赤れ肉れ湿氣

るれ地をやり砂をいし梨

と梨まされあつ—あつ—

砂をかき—

▲林檎を好家ハ—りんご百顆

の内十顆をとりたりたれぐれ
氷を入つたの中へ浸し満り
をうけひくは後封し一室べし
久しくとむる

▲茄子ハ豆腐かき一升を湯三
合のせきうふ一晩づゝるを
入るる一升茄子あくる
くた 何虹豆と同一

○冬 棚乃とあつひを標乃
仍ふふさきは四五度と
せぬぬを標し

あつひはとやくらり

▲貯柿子 新しに柿を洗
ひ罐子れ肉へ入るるあつひ

やうして蓋をよく一箱の
内へ罐子をもて箱の蓋を
合せ紙をしてよくとりて

バスーを換むる又新しに
柿子瓜葉れまより洗

くわり壺ふ入蓋をよく
して貯る久しとたす

▲尊菜海苔を貯るは

ぶつと湯紙をさし、空に水
一升ふ塩一合ありせ、漢墨一

欠かりきりしてよきたを所

▲荔枝を搾るかた、一は紙

母ては、とまりぬり、或は壺に木

ろのかに、いけ、重なり、一

と、扱でん

▲葡萄を搾るかた、新ふ葉

一、う成とりて、毛紙湿をぬ

ぐひ、桶の蓋の内ふ、あり方ふ

は、ぬれて、下へた、う、や、り、

桶の内へ、ま、ぐ、う、ふ、入、ま、色、合、さ、

や、ふ、蓋、を、よ、き、り、て、風、湿、の

入、さ、り、や、ふ、一、繩、を、そ、の、り、

た、取、へ、わ、り、や、ら、ぬ、り、一、ひ、を、純、

て、と、扱、で、ん

▲密柑を搾るかた、新し、

る、れ、を、搾、ひ、糖、の、葉、紙、を、

ろ、の、よ、に、あ、ぶ、又、糖、乃、葉、紙、

密柑乃、え、へ、ざ、り、ぬ、い、こ、を、何、返、

も、か、を、れ、ご、や、く、ま、れ、あ、ら、ぬ

や、あ、り、て、ぬ、れ、合、さ、り、や、り、ふ、

をたかり垂ハ友さそもたゆり

▲茶梅子（お茶）桶乃類小乾（お茶）り

粥砂紙（お茶）以くおほひまをり

▲新餅（お茶）法 云用乃中乃

餅（お茶）紙打綿（お茶）紙（お茶）箱小へを

綿乃中へ紙（お茶）紙（お茶）紙（お茶）紙（お茶）

よく一氣のぬりきりきりふ

して好きしは百日をくだた

しるが

▲生薑（お茶）紙（お茶）社（お茶）希（お茶）小（お茶）紙（お茶）紙（お茶）紙（お茶）

なり

▲何世（お茶）棟（お茶）乃（お茶）法 右棟（お茶）乃（お茶）英（お茶）

あんとと正ん時とりて紙（お茶）紙（お茶）

紙（お茶）紙（お茶）紙（お茶）紙（お茶）紙（お茶）紙（お茶）

小浸（お茶）一（お茶）二（お茶）日（お茶）して紙（お茶）紙（お茶）

乾（お茶）紙（お茶）紙（お茶）紙（お茶）紙（お茶）紙（お茶）紙（お茶）

久小なる（お茶）濃味（お茶）徹身（お茶）小（お茶）紙（お茶）

紙

▲白棟（お茶）乃（お茶）法 白棟（お茶）紙（お茶）紙（お茶）紙（お茶）

どくニ（お茶）して好（お茶）薑（お茶）紙（お茶）紙（お茶）紙（お茶）

好（お茶）紙（お茶）紙（お茶）紙（お茶）紙（お茶）紙（お茶）紙（お茶）

Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 雲霧 and 霜.

日本居家秘用卷四目錄

○天氣

け部ハ天氣乃一りの
ハヤと去る日月出ま
霧雲霜音よ
ふつとまぐく糸紙
まうまね也陽成り
の類ふつとまぐく
つと雨のうらとつと
と吹ぶらと年乃豊
張くハ一くまうん

○時候

け部ハ十二ヶ月ス
原た先一日和の

あはれ吾家正備あしう古老の
後成りしむくまうん

日本書紀... 天... 天... 天...

○天氣

▲日 日入るのち雲脂乃こ
く紅くれんきまはま晴あり但か
きく風ふく

○日 今のち好西乃方く小雲阿
まはま明朝雨ふり

○冬至とふ八尺乃表う成建まえ
日中いふろのい見い紙い足いるいふい夜
のいごといくいなるいはいうい度いのごと

くあいらいざいらいんいろいのい年い西い一い

暑止むハ水おほし暑止
アどくハ早なる表ハ夏日紙
そくり新乃奥たり

▲月 廿五日紙月交と云

雨ふる久しく冷り

○廿五日廿六日雨をくハ来

月三日四日船紙新事一を

くま

▲暈 俗ハ暈光 日ハ赤暈

まけりの日大風雨りりて

雷はよくたり

○月ハ白暈ありハ一室

ハくの日風雨一室をまけ

るの月風雨おほし

○風雨乃あま月雲氣

紙ぬく暈りり

○月乃暈の内ハ早

晴なり早なるまけ雨り

▲流星 流星東より西

りつまハ翌日雨り西り

東よりつまハ風より西り

北よりつまハ翌日雨風大

ふれこら北より東へうつまは
霖雨みづあめより北より南へうつま
ハ明日あした降りて雨あめのたおの
く流ながるのち方ふ風かぜき
ぶ

▲風 きのこの日大風おほいかぜき

NOT SEEN

丙丁ひやうてい乃日雨のひあめより丁乃日大風
よりよハ早はやに己乃日大風おのひおほいかぜ
けバ大おほ小こ早はやに雨あめ乃日大
風かぜよりバ大おほ雨あめ流ながる

○夏なつの南風みなづかぜハ晴はれまの南風

ハ雨あめ夏なつの北風きたかぜハ雨あめ冬ふゆの南
風かぜ三日さんじつを相あひより

○松まつ乃風のかぜ早はや乃日のひおこまハ
早はや乃日のひやいぬ乃日のひおられバ
雙ふた乃日のひやむ

○東風あづかぜ雨あめ飯いひおくらハ常つねなる
梅雨つゆと去い周しゅうの中なかとハ東風

○秋あき乃北風きたかぜハ雨あめ飯いひたくらと
いハとと秋あきの夜よハ北風きたかぜより
く

○毎月廿四日廿四日の風ハ
未雨の風しつゝ子丑の月を色ハ
雨少く卯辰乃月をよむ風
雨あり

▲雲 暮分秋分至冬至
け月雲動風足るなり

きんろの年ほりり

○おしといそ峯いそ巖乃とふ白蛇

雲りりりりりり中山嶺ふりり

石山の帯おびといふなりこの雨ハ

と目張いてだーておめーん

雨少

○雲輪のこころありハ大風も

れまくまもきん小風

○一天小雲をひきしん三日の内

小雨少

○雲だりのほをよむる時ハ雲

ハ雨秋ハ西風しつゝ晴る事りり

○朝雲喜晴暮雲喜雨 代山草華

○雲りりりりりり天動地考少少

大地ふりりりりりりりりりりりり

りりりりりりりりりりりりりりりり

つゆ雨より又雲西南ふり
出雲より雨はるし但夏乃出
雨の中入雲候幸しと云ふ
伊勢より法りふ西北ふり候入
雲より雨急きなり出雲より
海水候師がふふ山岫より
入雲ハ水氣候候山嶽ふり
なりと云ふは山海乃分野
と云ふのこ

▲雨 雨之五日降はる
雨成ま子且乃時山乃根すれ

とらけ晴るし候なり北東風
なるなり但西北しきなり
西小雨雲のこり候なり
日くはるし明日ハ雨

○雨 雨は朝より候なり
晩の晴ハ真乃晴なり

○雨 雨は陰湯蒸蒸して降るなり
なりと云ふハ靄乃蓋乃淋滴乃

○雨 雨は曇り雨ハ降るなり
なりと云ふは海はるくより候

雨の降りし雨をまねぬ日致
 するにやうくしるく降るに
 されたり夕立ハ一と候へども
 雨の降りし雨をまねぬ日致
 の末冬れ雨の時雨ハ降りて
 なるに晴れ又雨の降りし雨
 雨をまねぬ日致するにやうく
 雨の降りし雨をまねぬ日致
 雨の降りし雨をまねぬ日致

○申子辰乃時乃雨ハ久しく
 雨の降りし雨をまねぬ日致
 やうく晴る己乃時乃雨ハやうく

又雨の降りし雨をまねぬ日致
 夜乃中の晴ハ久しく雨
 雨の降りし雨をまねぬ日致

○八專乃他日雨少くは晴れ
 雨の降りし雨をまねぬ日致
 雨の降りし雨をまねぬ日致

○去乃社日小雨少くは年
 雨の降りし雨をまねぬ日致
 社日小雨少くは年豊
 年カケリ

○廿八日小雨少くは年の初

日おほくハ雨つる三日こと
又雨

▲雪 正月乃朔日の雪を
早成るる

▲霜 去のちおハ雨成るる
三日成るる

○霜 少くもまけ早成るる

▲露 朝霞不出門夕
露ハ雨なり暮霞行千里
夕ハ雨なり

▲雪 山ふのぼるる

花月晴なり里ふく

くかんの雨つる雪ハ天よりく

どろろと界雲ふ似る霧ハ

地よりのがく煙ふ似る霧ハ

ハ山林をたふふ

秋冬ともまじく

温なりハ霧乃とる

一なり

▲雹 雹の本乃枝成るる

雨時ハ五穀との

▲露 露なるも

書定必用

又うの地ふ火炎りくし和
がー

▲燈 灯ふ思に煙くらのけ

子紅縮のトふたまきくく

死に明日雨く

○灯りくくく定くくくハ明相

大風と和ん

○灯乃光をくく明くくく動

うざんハ和和なり

▲雷 雷の声もあうくたうく時

扶くくたこもハ雨おほく

▲總論 煙くくくたうくハ雨乃

くくくくをりまふのけんハ晴

○明日は地火照でれ次の日雨

とゆく

○夏じくくくハ雨冬ぶく形

鳥亦小花ハ香のまきく

○水蝕風虹 水虹屈亮也

主風風虹月暈也主晴伐山故事

○久雨乃時草左のとふ園

けに朝おるけ晴暮おいつ

ハ雨く

書影月
廿二

○鷓鴣朝あけぼのあけぼの大雨暮くれ小鳴こなハ
 小雨こさめ又一また一ひと夜よ小朝こあさをけハ雨暮
 ふるくハあけぼの照あかり設しやせしあけぼの早はやなり
 ○母鷄ははけい乃背のせ小鷄こけい雛ひな成なりおつるを
 鷄けい距こ見みといハ雨あめ成なりこころ
 ○慈涼山じりやうざん成なり出い出でハ大雨あめなり
 ○水鳥みづとり不な小宿こしゆく成なりハ雨あめ
 ○蛙鳴かきこゑく雲くも雨あめ成なり倍よほ成なり
 ○蚊あし穴あな不な集あつ成なりハ雨あめなり
 ○牛うし吼こゑまげハ雨あめなりあめなり
 ○鵲うす乃巢のす成なりくあめハ大雨あめなり

夕ゆふ早はやに

○鳩鳴こゝろく還かへ声こゑなりあめ婦つと成なりハ
 ぐあめハ晴はれなりあめ還かへ声こゑなりあめ
 婦つと成なり還かへとあめハ雨あめなり
 ○鵲うす浴あび止とどまハ雨あめなりあめ水みづなり
 日ひ乃風のかぜなり
 ○群ぐん蟻ぎ亦また成なりいあめであめ蚓こも路ぢ小こ横よこ
 たつハ雨あめなりあめなりあめなり
 ○藤ふじ花はななりあめ春はるなりあめハ雨あめなり
 雲くもハ雨あめなり
 ○天牛あまがしなりあめハ雨あめなりあめ

○檀の本急おこつた葉けが
大水けり、農人畏れうかひ
て水早成りしを

○朝舟小水代梓ふめりて狂
言成りしふれりてハ雨おほ

一 水けり雨すれり

○夢の葉例より人を重んず
は辛言ゆ

○石駝徑に樹小汗をまき
又泉の声清りて朝の言
さハやうあに灯にたけり

水に瀑小声けりハ皆ハ雨乃
は徴なり

○桐ハ晴明入日しむる花
さくさくしむる花咲きしむる乃
年々さくさく

〇正月朔日甲寅イハ午ウ時ト刻ク卯トありイ辰イ
 〇正月朔日甲寅イハ午ウ時ト刻ク卯トありイ辰イ
 〇正月朔日甲寅イハ午ウ時ト刻ク卯トありイ辰イ
 〇正月朔日甲寅イハ午ウ時ト刻ク卯トありイ辰イ
 〇正月朔日甲寅イハ午ウ時ト刻ク卯トありイ辰イ

〇時候

十二月小月十七日初日の昔
悪乃又や成るる公

▲正月 家イの朝ウ西北イ乃イ日イ々

又水イ乃イくイて曲イ成イ功イ以イ害イと東

北乃イ風イハ五穀イ熟イ也

〇正月廿日晴イりイるイ百菓イ熟イ也

〇正月十日午時イ刻イ卯イありイ辰イ

〇正月朔日甲寅イハ午ウ時ト刻ク卯トありイ辰イ

〇正月朔日甲寅イハ午ウ時ト刻ク卯トありイ辰イ

〇正月朔日甲寅イハ午ウ時ト刻ク卯トありイ辰イ

〇正月朔日甲寅イハ午ウ時ト刻ク卯トありイ辰イ

〇正月朔日甲寅イハ午ウ時ト刻ク卯トありイ辰イ

冬雨おほし

○え日四方小寒雪の氣あま

ハ五穀入小寒の氣あま

維新の氣あま

候とくも雪の氣あま

○立春乃日甲しなまハ春年

丙丁ハおほく早候とくも成已

ハ田家以按に庚辛ハ人馬

ごく主寒ハ水天小候とくも

○去分の日東乃方小も重

りとれ麦熟に雲あま

善物とのし人瘦り

○朔日天とくも一片乃雲

くもれ一年早なり

○正月之のまゆもれ大水

この己この午ゆもれ大水

ひてりれ之乃卯あまハ麦豆

なり

○は月夜をもちハ春あま

和らぐとの霜朝日小清

四時まぐたやハ一五日

形之日よりハ必雨なり是成

信ふおのちと云

○は月成交のちより風吹こ
とありはねふ雨とくが文知
かこあるが

○正月れ末より玉候はく
とれあり但西風成交ふ雨
まのほく味と死の形はし一
夜の四ふをぐる一是をあか
トそそ新しう

○冬より正月までれ辰巳
乃知ら期より吹いふをば七

時より雨ふありて西風は
くちあるが

▲三月 ○雷れもく先くれこ
ふとれ声実子れ方ふあまは
それ平水あり

○は月九月十二日十四日十七日
この日々日酉の時候と別れ
をさしる風をかきい雨

○二月の節ふ入ころいを腹の
氣たうふ也よ一月れ中よと
五度六度天氣わたりて候知

吹とれる甲

○は月文氣よく中と辰巳
乃風吹と死ハその風況身ふ
ほくかり雨うりて西風う
々

○二月の末三月の初白山野
かすむハ朝ハ四時とて陰
と西風又と北風とて吹
あぢく四つとよりハ陽とと
まろぐハ月ハ雨ハみん

○二月ふね家時命ハまふ

▲三月 ○は月三日ふ風うるは
初ふ忠かー雨あもだる染れ
葉河ーハ夜睡をけハ早次
ま

○三月乃節ふ入レ山とらすこ
本くこころがれとて晴ぶらハ天
氣んまのわーハ月和々ハ
れ方おーととあうの定れど
ゆくまよくとれと照と知
ぐー又四方ハまハ南風と
くくくく雨と知ん又

辰巳小雲のこり山の振ね晴は
あううぶぶぼぼぼぼハ雨あめ強つよくとと強つよへへ

○巳月し土つち用もち小こ入い時ときハハ云い氣き
ととままららららとと西にしの方かた冷ひやり
らららら三さん時とき乃な内うち小こ五ご

○巳月し土つち用もち雨あめ北きた風かぜままく
晴はるるハハ三さん五ご日にちとと天あま氣きううく
西にし風かぜままくく晴はるるハハ三さん五ご日にちハハ朔しやく

南みなみ風かぜふふままるるままくく好よ雨あめとと吹ふく
○三月さんハハ本もと乃なくくままくくままくくままくく
知しははくく吹ふくくままくくままくくままくくの

好よ之の時とき乃な内うち雨あめととなりなり西にし風かぜ
ははくくああららるるくく

○四月し乃な神かみ小こ入い一いつ月げつ南みなみ風かぜ
少すく多たくくううのの翌あした日にちハハ北きた風かぜとと
ああままかからられれるるハハ北きた風かぜハハ北きた

知しををままくくハハ南みなみ風かぜををままくく
ははくく一いつ月げつわわららりり小こ吹ふくくままくくをを
ままくくハハ北きた風かぜととなりなり

▲四月し。立た夏あつ乃な日にち巳しの時とき
東ひがし南みなみふふままるるままくくああままくくハハ年としをを
ななりり

○四月朔日雨少き日々の年

早二日ふ雨少き日水たゆ

三日ふ雨少き日早四日ふ

雨少き日暮年なり。○は夜

妖毒小似たりと云葦湯あり

ふがく戦ひ考覚ふゆあ

○は月晴はくは晴少風吹て

雨うんとく候ごとくたりん

幸ゆきとくと雨少くは

○は月日乃入るは西の雲赤

くらの夜元明て四ヶ

くとま候ハ五用八尊乃入とお

らとくは雨とあら

○二月四月の節おりのれ時ハ

一五日二四日おより五やんを

とらやうをまじりて節ふは

ハお風ハや候り

○は月を南風はく吹と知

ハ雨とまらるる。但やあて西

風ふわり候

▲五月○夏至東南の風あ

まは晴是頃白砂風とらふ

号長必用

○夏至乃日雷あまは三伏
冷なり

○梅雨ふ入と死ハ風さハ
カ吹とれ風はすふ田々

あると雨方梅雨のさ
ハ南風はくさるる

○五月六月の節をくあら
乃雨ら五のあハくあら

毎に雨ふ東風とひて二日
はれぬくさるる

知る

△六月○五月西風ゆる

五穀あ

○三伏乃中大ふ熱よも
あまらば雨言れ

○五月雨あまらふまば七月
ふひてり

○五月相くそりて四つ時
とのまの風ゆくと

さより北風ふあま七のさ
小風をあま夜ふ入く

あま

ら晴涼く

○は月未申れ風中くくと少

をせよあふりしりしり日

十日を晴くそのあふりし

晴涼く

○は月去用は山ふりし海

ふ八五日十日を晴く東風

少くはあり是夜去用を

と山をくたあふりし海

は甲ふりし

▲七月 ○は月夜中ふあは

風ふりしふゆてやまは雨と音

甲風ふりし南へまわりし

己乃方くくあふりし

くら月大風とあふりし

○七月乃中辰己り成実の

方へ雲りし大雨又ハ大風

少くあふりし

▲八月 ○は月細月小晴まは

ふはるあふりし早をまは

○は月十日を廿日とけは

風吹事あり是を世にハ

月記 山とりの七月のすよ

八月（うら）く（吹）来りし頃

は天氣は去来八專ありひ

節かつりふひつと節々

▲九月○は月去来乃れより

は雷あり雨ありとれを

甲世に出入とつ

▲十月○は月雷の雨ふ霧

あまは来り五月の内より

水あり

○冬至は日北乃方ふ雲

あまは来りし雲をよまは

り

○は月十五日晴るをなをれ

暖あり

○は月時雨ふ西風をひて吹も

のちあはれ風ははげしくふ

うら

○は月世上温ありて海止す

をほわはせふ是後十月の

るあはれしつふはと雨とあり

西風とあり

○は月雷いづちありて死しは来年

あをよけし事こと十分あり

▲十一月 ○冬至とうじつは夏至げじつ

と相対あひまは

○冬至とうじつは時雨しぐれは晴はり

同どう昼ちゆう夜や風かぜをを霜しもをを

早はやてて聖せいののとあり明日

晴はるる但た一い日にちはは雨あめ

○冬至とうじつは一日いちにちはは大おほ

旱ひてん二日ふたにちふふはは小旱こつげんと

田い主ぬしふふはは年とし四よ日にち主ぬしふふはは

五穀ごこく豊ゆたかなり五日ごにち主ぬしふふはは

少水せうすい六日むくにち主ぬしふふはは水みづあり

○庚こう相さう月げつ乃の中ちゆうハハ冬至とうじつなり

ここののハハ十じゅう方ほうぐぐれれののちちははあり

晴はるるつつりり天あま氣きをを色いろざざりりと

あり

▲十二月 は月はつき正月しんげつ乃の節せう

ふふ入いるるハハ冬ふゆととなり

おおりりハハ東とう風ふう吹ふくくと

ああららるる一い支し

日の中ふ雨うう西風つよく
吹よものなり

○は月大音うんと二日え
うりふらうう雲の勢白く
風と方ふ志うてうむれよ
なり

○雲はうまの音ハ風はよく
吹よものなり存ふ花のごと死
音うまハはうれ風とやうて
やむものなり

○は月とく一雨務う海はさハ

氷の酒醋とかんがれん

○除夜小東北の風あまハ
五穀大ふふり

